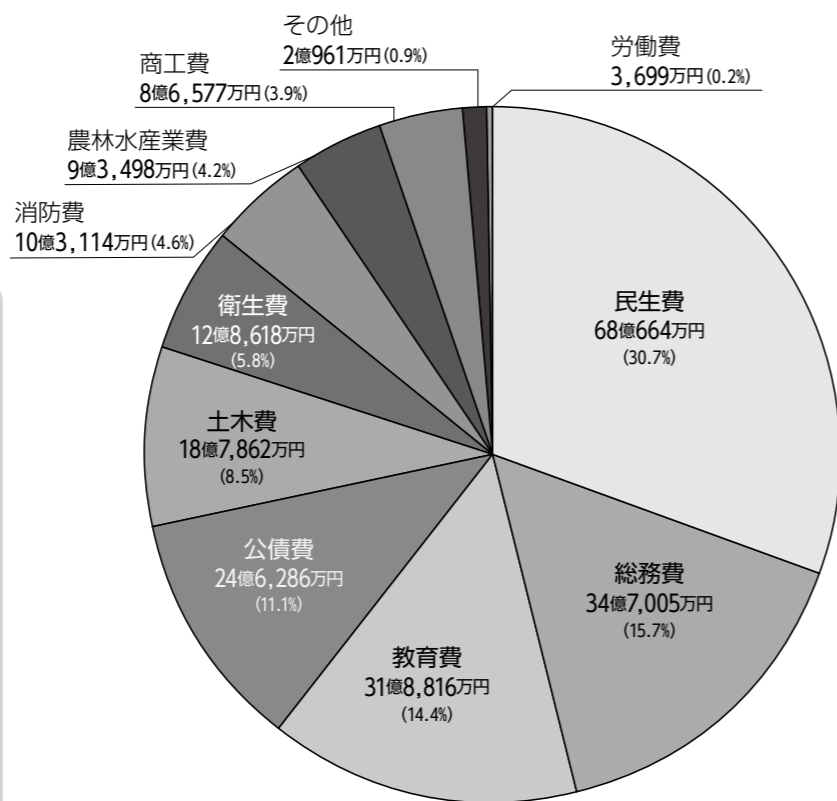


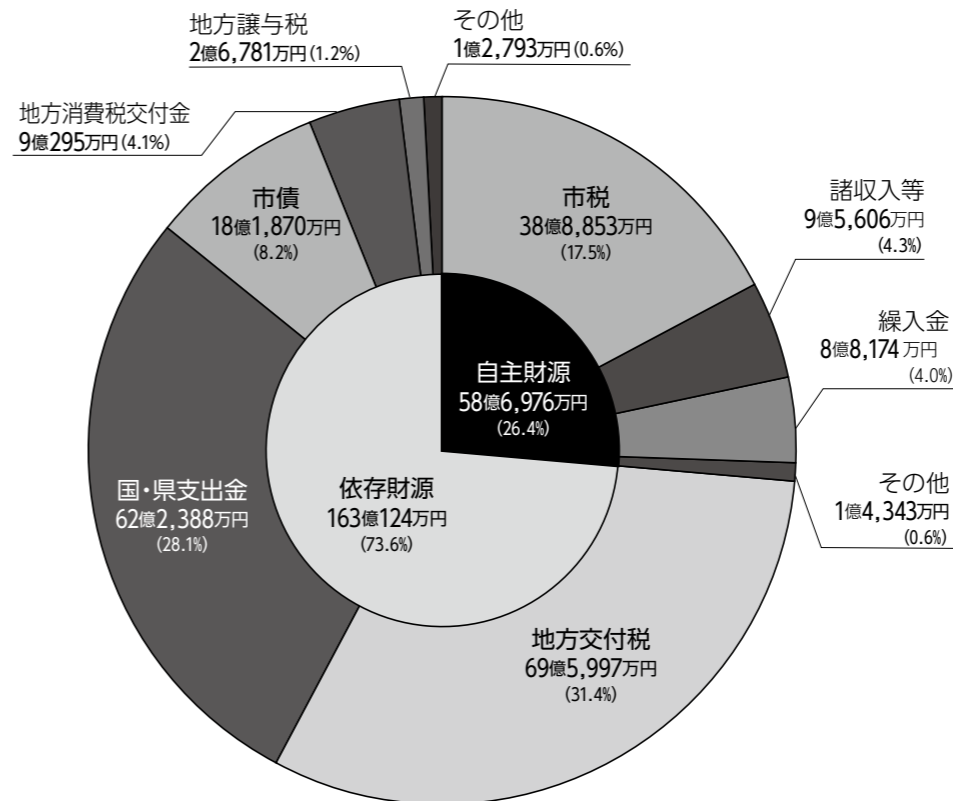
歳出を性質別にみると…

扶助費	42億5,707万円(19.2%)	義務的経費 46.9%
人件費	36億8,514万円(16.6%)	
公債費	24億6,284万円(11.1%)	投資的経費 18.1%
普通建設事業費	40億1,013万円(18.1%)	
物件費	32億3,792万円(14.6%)	その他 35.0%
補助費等	24億9,980万円(11.3%)	
繰出金	13億4,945万円(6.1%)	
その他	6億6,865万円(3.0%)	

一般会計歳出  
221億7,100万円



一般会計歳入  
221億7,100万円



財政用語の説明

【歳入の関係】

- ▶地方交付税…人口や環境などの違いで生まれる地方間の格差を調整するため、国から配分されるお金。国が徴収する所得税や法人税などが基になっています
- ▶国庫支出金、県支出金…国・県が市に対して交付する補助金など
- ▶市債…建設事業などを行うために、国や金融機関などから借りるお金

【歳出の関係】

- ▶民生費…福祉や子育て支援などのお金
- ▶総務費…企画調整事務、庁舎や財産の維持管理、戸籍管理、税金の徴収など市の運営全般に使うお金
- ▶教育費…学校教育や生涯学習の充実、文化・スポーツなどを推進するために使うお金
- ▶公債費…市の借金返済に使うお金
- ▶土木費…道路や公園などの整備・補修に使うお金
- ▶衛生費…環境の保全や健康増進などに使うお金
- ▶消防費…消防や災害対策などに使うお金
- ▶農林水産業費…農林水産業の振興などに使うお金
- ▶商工費…商工業や観光などの振興のために使うお金
- ▶義務的経費…人件費など支出することが義務付けられ、簡単に削減できないお金
- ▶扶助費…子育てや高齢者、障がい者などの支援に使うお金
- ▶物件費…事業委託や光熱水費、物品の購入などに使うお金

【その他】

- ▶企業会計…事業で得られる収入で経費を賄う独立採算制を原則とした会計。市では、水道事業会計と下水道事業会計がこれに当たります

水道事業会計

区分	収入	支出
収益的収支	8億7,413万円	10億8,700万円
資本的収支	4億7,035万円	10億3,806万円

下水道事業会計

区分	収入	支出
収益的収支	9億8,383万円	12億6,557万円
資本的収支	5億1,930万円	8億8,550万円

億6813万円増加しています。歳出を性質ごとに見ると、人件費や扶助費、公債費などの義務的経費は104億505万円となり、昨年度から2億7308万円の増額となっています。義務的経費が歳出に占める割合は46・9%と、前年度比で4・1%増加しています。今後も、人件費や物価の上昇などにより、引き続き厳しい財政運営が続くと想定されます。

特別会計

特別会計は、特定の事業を一般会計と区分し、特定の歳入と歳出を区別して処理する会計です。

■国民健康保険事業勘定	35億1,900万円
■国民健康保険直営診療施設勘定	1億5,512万円
■後期高齢者医療	5億2,263万円
■魚市場事業	1,710万円
合計	42億1,385万円

一般会計の歳入を財源別に見ると、市税や諸収入、繰入金など地方公共団体が自主的に調達できる自主財源は58億6976万円。前年度比で4642万円の減額となっています。自主財源のうち、財政調整基金の取崩しなどの繰入金については、前年度と比較して2

なっています。一方、久慈湊小学校の移転改築事業や小屋畑川切替工事をはじめ、継続中の大型事業や社会保障費が高水準で推移していることなどから、予算規模は平成30年度以降、2番目に大きくなっています。

予算編成  
大型建設事業本格化の中、  
経常的な事業を中心に編成

令和8年度の一般会計当初予算は221億7100万円。令和7年度と比較して14億5600万円、6・2%の減額となりました。当初予算の概要をお知らせします。  
※金額は1万円未満を四捨五入しています